

その「物語」、の物語。

「ペログリ」的複眼思考の味わい vol.036

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● '66年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブ
ログ】 www.nippon-dream.com/



増税&原発ありきな「古い方程式」のままでは日没する国への転落は不可避

今週の逸品



生チーズの冷奴風 472円
弓削牧場オリジナルチーズプレート 735円

「山、海へ行く」と称して六甲山系の土砂を地下ベルトコンベアで運搬してポートアイランド、六甲アイランドを産んだ「株式会社神戸市」に遺る緑の聖地が弓削牧場。道順はHPに記載。若き2人のデートにも家族

連れのドライブにも相応しい時空。写真で紹介の2品以外にも定番のホエーシチューにハーブサラダ、黒パン若しくはもち麦ライス、ミルクで1785円のセットも。HP上から牛乳、乾酪、甘味等も注文可能。

【レチェール・ユゲ 弓削牧場 ヤルゴイ】神戸市北区山田町下谷上西丸山5-2 ☎078-581-3220
<http://yugefarm.com/> ☎11:00~18:00、16:00以降は喫茶。定休：水曜日

illustration by Hajime Anzai



「野田佳彦首相は、国民の間で盛り上がる反原発の機運を一蹴し（cut and paste）、現在停止中の原発を来年夏迄に再稼働させると決意を固めた（determined）。その上で、原発無しでは日本国家が立ち行か（get on）ずも無く、即ち、原発の速やかな段階的廃止を検討する事など不可能（impossible）、と述べた」

国連総会に出席すべくニューヨークへ出発する直前の9月20日、首相官邸で応じた単独インタビューが、21日付「ザ・ウォール・ストリート・ジャーナル」紙に掲載されました。僕が翻訳した文章を、NHKのニュース番組で同時通訳を務める友人に確認して貰った「一蹴&不可能」発言です。

国会開会中を理由に会見にも応じていなかった宰相の、就任後最初の独占取材の「手柄」をアメリカの経済専門紙に奪われても抗議すらせぬ護送船団記者クラブの不甲斐なさにも愕然としますが、更に驚愕したのは、その発言内容です。「原発への依存度を可能な限り引き下げていく」と言明した所信表明演説との違いは歴然。「正心誠意」と呼び得ません。

平安前期の貞観地震に比する今回の大震災からの復興とは地震・津波に加え、人間の五感が察知し得ぬ無色透明無臭の放射能と対峙する、人類史上で初めての道程です。増税&原発ありきな「古い方程式」の呪縛から解放されたれ限り、日出ずる国改め日沈む国へと転落不可避なのです。

六甲山の麓で弓削忠生、和子夫妻が営む弓削牧場は、既に3・11前から「新しい方程式」へと踏み出しています。家畜の副産物たる排糞尿を活用したバイオマス発電で牛舎等の動力を賄う実証実験へと着実に歩を進めています。

新神戸トンネルを通過して三宮の喧騒から僅か15分、宅地開発の波が押し寄せる一廓で、「天空の城」を護り抜くレチェール・ユゲに到達します。阪神・淡路大震災後の1998年盛夏、3万坪の緩やかな丘陵に広がる弓削牧場を訪れた際に僕は、チューリッヒの街と湖を見下ろす緑斜面に建つ瀟洒な古城ホテル、ザ・ドルダー・グラウンドを想起しました。

牛乳に加えて1984年、酪農家・弓削夫妻は乾酪（チーズ）に取り組みます。試行錯誤の末、カマンベールの生産に成功する過程で「フロマージュ・フレ」と邂逅するのです。搾乳から2日、熟成する前の生チーズです。敷地内の「ヤルゴイ」では、それら弓削夫妻の「結晶」を味わえます。

鯉節と玉葱を塗したフロマージュ・フレに微量の醤油を垂らすと、恰も質感を伴った豆腐を食している心持に陥ります。ホエーと呼ばれる乳清と完熟カマンベールで煮込んだホエーシチュー、自家菜園の香草を用いたサラダも定番の逸品です。テラスの一廓では、犬と共に味わえます。9月末に1歳の誕生日を迎えた我が家のLottiaと共に午餐を愉しみました。訪れるべき神戸の「隠れ家」です。